

令和6年度 八王子市立武分方小学校 経営報告

校長 清水 隆司

目指す学校像

「自分や他者、一人一人のよさに気付き、
自分の力を伸ばせる学校」



○一人一人の「学びに向かう力」を伸ばす学校

- ・「わからない」「できない」を大切にしながら、努力を継続していくことで「できた時の嬉しさ」を感じられる授業を追求する。
- ・教師が子供たちの多様な考え方を大切にし、学びのめあてへとつながる授業を行う。
- ・地域人材や保護者、中学校区の学校と共に、学力向上に向けた取組を推進していく。

○自尊感情（特に役割を果たし、認められることの喜び）を高め、主体的な実践力を伸ばす学校

- ・異年齢交流を通して、責任感や自己有用感を高め、自ら実践する力を育てる。
- ・互いの良さを認め合い、共に成長することに価値を見出す気持ちを育てる。
- ・自分や他人の「想いを大切にする」心を育てるとともに、キャリア教育を推進して自分の将来や生き方（人とのつながり）について考える機会をもつ。

○地域の子が安心して通え、地域で子どもを育む学校

- ・複雑化する子供たちの課題に組織で向き合い、社会的自立を見据えた居場所づくりに取り組む。
- ・学校に保護者や地域の方が関わることで、地域と一体となった学校づくりを進める。（ゲストティーチャー、わくわくサマースクール、学習や行事での教育支援ボランティアの受入、地域の愛があふれる花壇等）

令和 6 年度 の 取組 目標 と 方策 に 対する 評価

1. 児童のよりよい人間関係を形成し、「役に立つ喜びを知る子」を育成する。

具体的方策	成果・課題
◎異学年交流を充実させ、「人の役に立てことを実感できる」「学級外でも自分が活躍できる場があると感じられること」「頼られる上級生であること」「上級生に憧れの思いをもつ下級生がいること」が自尊感情を味わわせる。A ① 「豊かな人間関係の形成と自己実現に向けた教育活動～話し合う力の育成を通して～」での校内研究の推進。 ② 異学年交流活動と学校行事のカリキュラムマネジメントを通して児童の活躍の場をつくることで自分のよさや共に過ごす仲間のよさに気付かせていく。 ③ キャリアパスポート（オリジナル冊子含む）の効果的な活用。 ④ 保護者アンケート、「本校の教育方針が役に立つ喜びを知る子であることを知っている」の肯定的評価 90%以上。また、「学校が力を入れて行っている取組（たてわり班活動・地域と連携した学習）」の肯定的評価 90%以上	① 異動者が多数あり、本校の校内研究の見直しについては熟議を重ねながら進めていった。特に 2 学期末以降、子供たちの変容が現れてきてからは研究の成果を教職員も実感を伴う成果として挙げた。 ② 学校行事の見直し、精選と特色ある教育活動を結び付ける意識は教職員の中で高まりを感じた。教職員は異学年交流活動を考え、他学年との共同活動を企画する等、率先して新たな活動を取り入れようとした。 ③ 通知表の所見欄を廃止し、キャリアパスポートに替えた。また、学校だよりでその意図や内容紹介を行うことで、学校評価において前回比+27%の肯定的意見が得られた。 ④ 後期の学校評価において、「本校の教育方針を知っている」の肯定的評価 94%。また、「学校が力を入れて行っている取組」の肯定的評価 96%だった。

２．教師は児童が主体的に学ぶことのできる授業を行い、また、児童に達成感を味わわせる経験を積み重ねさせ、児童の「学びに向かう力」を高める。

具体的方策	成果・課題
◎「八王子っ子ミニマム」（市学力調査）や「貳分っ子検定」の結果をいかし、個に応じた課題を設定して基礎学力を定着させる。Ｂ ① ドリル型コンテンツを活用した学習を授業や放課後補習、家庭学習で行う。 ② 各学年に応じた「貳分っ子検定」に取り組み、基礎学力とできた喜びを味わわせる。 「貳分っ子検定」は各学年７０％がクリアを目標とする。 ③ 「八王子っ子ミニマム」（市学力調査）において１回目から２回目の改善がみられる。 ◎児童がマナーを守って適切に学習用端末を使いこなせるようにする。Ｂ ① 授業や家庭学習等で学習用端末を活用し、授業実践を教員が共有する。 ② 各教員が学習用端末の設定を適切に行い、端末を介したトラブルを未然に防ぐ。	① ドリル型コンテンツだけでなく、児童の実態や学習内容に応じて紙媒体のドリルを活用し、児童にあった学習形態を第一に考えることができている。 ② ２年は目標値をクリアしたが他学年は下回った。取組時期や組織を活用した取組等、課題があった。しかし、初めての取組であったが、児童の学習意欲を高め、頑張れば少しずつできるといった実感を味わわせることができたのは成果。 ③ 正答率 16 問未満の割合が 1 回目から国語では 20.18% 減少、算数では 11.49% 減少し、学年での習熟の向上がみられた。 ① 児童の実態に応じて効果的に活用した。情報視聴覚部が中心となり、教員間での情報共有の場が適宜行われた。 ② 端末を介した大きなトラブルはなかったが、使用コンテンツや約束事は本校のルールに沿った指導の徹底が課題。

3. どの子も安心して通える安全・安心で居場所となる学校づくりに組織的に取り組む。

(人権・健康・安全への不安に対して組織で対応し、「いじめ」の未然防止、早期発見・解決、不登校や特別な配慮を要する児童への支援に取り組む。)

具体的方策	成果・課題
◎人権・健康・安全への不安に対して組織で対応し、「いじめ」の未然防止、早期発見・解決、不登校や特別な配慮を要する児童への支援に取り組む。B ① いじめ対策委員会及び情報共有と記録作成の時間として毎週の実施。 ② 特別支援校内委員会を計画に基づいた実施だけでなく、対応に応じた臨時に開催する。 ③ 法令や条例に基づいたいじめ対応をいじめ対策委員会を中心に適正に行う。 ④ ふれあいアンケートや子ども見守りシートの内容の適切な取り扱いと対応を行う。 ⑤ 保護者アンケート「いじめのない学校づくりに取り組んでいる」の肯定的評価を80%以上にする。	① 月曜日の4Hにいじめ対策委員会、水曜日の放課後に全教員で情報共有の時間やアンケートの内容確認の時間として年間通して実施することができた。また、月に一回SSWも同席し、不登校児童の対応について確認する機会をもった。 ② 都の巡回心理士や市の教育相談事業を効果的に活用し、児童にとってより良い学びの場が提供できるように組織対応できた。組織改編し、児童理解の向上を目指していく。 ③ ①に記載した通り、今年度の組織対応の大きな改善点として早期発見、早期対応につながった。 ④ アンケートの内容を確認する段取りを組織化した。漏れがないように対応できた。 ⑤ 肯定的意見は前回比から向上したものの、77%にとどまった。「わからない」の回答が多く、学校の取組を周知させていくことが必要である。

4. 地域と連携した特色ある教育活動を進め、地域に愛着をもち、よさに気付く児童を育てる。

具体的方策	成果・課題
① 地域人材や地域教材に関わるゲストティーチャーやボランティアを取り入れた学習活動を進める。 A ② 学校運営協議会が行う「わくわくサマースクール」の実施。 A ③ 花壇の維持や植物の栽培などを通して、地域の方々と触れ合う機会をつくる。 A ④ 校内の美化に努め、環境を整える。 B ⑤ 元八王子中学校との小中一貫教育。 B	① はちまるサポートとの福祉授業、がん教育でのゲストティーチャー、保健所の命の授業、企業による金融教育等、新たなゲストティーチャーやボランティアを取り入れた学習活動を進められた。学校コーディネーターによる積極的支援が光った。 ② 今年度は 8/19 から 8/28 まで計 23 講座で延べ 541 人の参加があった。地域の方々による講師だけでなく、卒業生がボランティアに関わる等地域と一体となった取り組みができた。 ③ 元八王子地区青少対、学運協、PTA、他ボランティアで構成される「ガーデnfrol」として発足し、改めて団体としての一步を踏み出した。 ④ ③の屋外の環境、事務職員の積極的な関わりもあり、児童の安全に努めることができた。 ⑤ 連携校の研修に本校職員も合同で参加した。次年度はその幅を広げていきたい。

5. 教職員のライフワークバランスを考え、自分の強みを生かそうとする職員集団となる。

具体的方策	成果・課題
◎各自の強みや専門性を生かすとともに将来の教師像を見据えた分掌を担い、教師としての力量を向上させ、自己有用感も高めていく。B ① 令和7年度提案は令和6年度分掌が年度内に反省を踏まえた提案を行っておく。(卒業式は除く) ② 児童の怪我やトラブルは、早期対応を丁寧に行う。「連絡・報告・相談」を密にし、組織として真摯に対応し、早期解決と事後の当該児童や保護者へのケアを大切にする。 ③ 校務支援システムやホームアシスタントスクール、スクールサポートスタッフ、副校長補佐を効果的に活用することで教員間のコミュニケーションを深められる環境を整える。 ④ 都のアウトリーチ事業を活用し、職員が専門職に悩みや不安を打ち明けられる機会を設ける。また、育児や介護を抱える職員の負担にも考慮し合える職員集団となるよう、管理職が中心的役割を担い、職員全体で相互いに心の健康面でのケアに努めていく。	① 次年度の方向性は各分掌を中心に見通すところまで進めることはできた。一方、それを文書として起案し、提案するところまでは至らなかった。 ② 早期対応、早期解決、そして情報共有を円滑に進めることができている。組織体制と教員としての“第六感”も大切に丁寧に対応することを継続していく。 ③ 校務支援システムだけでなく、校務機の入替えによって生じた課題に対して情報視聴覚部から円滑な校務の進め方の提案があり、効率化を図ることができている。 ④ 夏季休業中までに全教員を対象に都のアウトリーチ事業を活用した面談を行った。職員一人一人が抱える公務や家庭での課題に対して互いに支え合う雰囲気職員室になっている。4/1に管理職による一人欠けることなく3月を迎えるという宣言は全職員の努力や気配りといった思いがあって達成できたと感じている。